

平成29年度 教育事業
第8回 チャレンジカヌーツーリング（8年目）

1 事業概要

大洲盆地を蛇行しながら流れる清流「肱川」において、中流域の3kmをショート編として川下りしました。自然溢れる肱川の景色を楽しみながら、色彩鮮やかなカヌーの群れが流れる様子はとても壮観なものでした。ゴール後には、簡易スローバッグを使った救助訓練を行い、水辺で安全に活動するための知識や態度を身につけました。

2 事業の目的（ねらい）

カヌーツーリングを完漕することで、達成感や自然のすばらしさを感じるとともに、地域の活性化や清流「肱川」の美化を図る。また、水辺で安全に活動するための知識や態度を参加者が身に付けられる講義や演習を実施し、カヌーによる体験活動の普及を後押しする。

3 企画・運営のポイント

昨年度から宿泊型の事業にプログラムを変更し、カヌーツーリングをより安全に実施するため、初年度参加者には、カヌー実技の基礎講習会への参加を義務づけた。今年度から3kmのミニツーリングを含む基礎講習会を「ショート編」10kmのツーリングを「ロング編」とし、ショート編のみの参加も可能とした。また、水辺で安全に活動するための知識や態度、災害時に役立つ知識を学べる演習を取り入れた。

4 期待される効果

短い距離のツーリングを楽しめる「ショート編」のみの参加が可能となったことで、体力に不安をもつ参加者も申し込みやすくなり、より広くカヌーを通じた自然体験を普及できる。また、簡易スローバッグの作成や、これを使った演習をツーリングに導入することで、より実践的な知識として、水辺で安全に活動するための知識態度の習得が期待される。

5 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

6 共 催 大洲市・大洲市教育委員会・大洲市カヌー協会

7 後 援 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所・愛媛県教育委員会
(株)愛媛新聞社・(株)NHK松山放送局・(株)あいテレビ
(株)南海放送・(株)愛媛朝日テレビ・(株)FM愛媛



8 期 日 【ショート編】第1回：平成29年7月15日（土）～16日（日）
 第2回：平成29年7月16日（日）～17日（月）
 第3回：平成29年7月22日（土）～23日（日）
 【ロング編】平成29年9月16日（土）～17日（日）※中止

9 場 所 愛媛県大洲市肱川【ショート編】約3km【ロング編】約10km
 国立大洲青少年交流の家（カヌー研修場を含む）

10 対 象 小学5・6年生親子、中学生、高校生、一般

11 参加人数 【ショート編】第1回：32名（定員20名）
 第2回：36名（定員20名）
 第3回：27名（定員20名）
 【ロング編】62名（定員50名）※中止のため申し込み人数

12 参加費 【ショート編】小学生1,540円 中学生以上1,570円
 【ロング編】小学生2,270円 中学生以上2,300円
 ※食事代、シーツ洗濯代、保険代等を含む

13 講 師 西胤正弘氏（北九州市立もじ少年自然の家所長）
 大谷裕之氏（アウトドアインストラクター）、大洲市カヌー協会会員
 国立大洲青少年交流の家職員、国立大洲青少年交流の家研修指導員

14 日 程
 【ショート編】

	13:00	13:30		16:30	17:30	19:30		21:00	22:30
受 付	カヌー実習 (平水版)		入所 OR	夕食 ・ 入浴	【講義】ショートツーリング 【演習】救助ロープ作成		自由時間 入浴 就寝準備	就 寝	
	6:30	9:00						12:00	
起 床	つ い	清 掃	朝 食	カヌーツーリング (3km) 菅田父橋～柚木カヌー艇庫				解散	

【ロング編】

	16:30	17:00	18:00	19:30		20:30	22:30	
受 付	開会式 入所OR	夕食 ・ 入浴	【講義】水辺の安全について 【講義】ロングツーリング 【演習】防災に役立つ知識		自由時間 入浴 就寝準備	就 寝		
	6:30	9:00	9:30		13:30 14:00			
起 床	つ い	清 掃	朝 食	移 動	カヌーツーリング (10km) 八多喜祇園河原～長浜河口	昼食 清掃活動	閉 会 式	移 動

15 活動内容

I ショート編

実習：カヌー実習（平水版）（13:30～16:30） 講師：国立大洲青少年交流の家職員

参加者講習会のスタートは、カヌー研修場でのカヌー実習（平水版）を行い、カヌーの基本的な操作について演習を行った。演習を始める前に、ライフジャケットの浮力がどの程度あるのか体験してもらうため、着用状態を確認した上で、参加者に実際に浮かんでもらい、流水の中でも安全を確保できる体勢についても学んでもらった。職員からカヌーの漕ぎ方や乗り降りについて学んだ後、参加者は流れの緩やかな水域で各自練習に取り組んだ。



休憩後は、十分な漕力を身につけてもらうため、上流に向けて漕ぎ上がってもらった。橋の橋脚との間にできた狭い水路をくぐり抜ける課題などに取り組み、参加者はそれぞれ基本を確認しながら演習に励んだ。

実習：救助ロープ作成（19:30～20:30） 講師：大谷裕之氏

夜間の講座は、大谷氏を講師に招き、溺水者の救助に役立つ簡易スローバッグを作成した。これは大谷氏が考案して広めているもので、ペットボトルとPPロープなど、身近にあるもので簡単に作成できる。参加者は各自が持参したペットボトルに、冒頭で学んだ「もやい結び」や「とっくり結び」を確認しながら簡易スローバッグを完成させた。その後、参加者はホールに移動し、救助者役と要救助者役と、それぞれ入れ替わりながら、実際に体験して使い方を身につけた。



講義：カヌーツーリング基礎講習（20:30～21:00） 講師：国立大洲青少年交流の家職員

明日のツーリングに向けて、ミニツーリングコースの概要やツーリング時の心構えについて、パワーポイントで映像を確認しながら学び、注意喚起と意欲を高める時間とした。

実習：ミニカヌーツーリング（9:00～11:30） 講師：大洲市カヌー協会会員

講習2日目は、父橋付近からカヌー艇庫まで、およそ3kmのミニツーリングを実施した。前日のカヌー演習により、参加者は一様にスムーズにカヌーを操った。特に小学生参加者の上達は目覚ましく、親よりも速く、意欲的に漕ぎ進む姿が目立った。途中、瀬の手前側にある中洲にカヌーを引き揚げ、瀬流れと瀬渡りを体験した。参加者は水深によって変わる水圧の強さに驚きながらも、夏の川遊びを楽しんだ。参加者はカヌー研修場の河原にゴールした後、昨日作製した簡易スローバッグを使い、それぞれに救助訓練を行った。



II ロング編

台風が愛媛県に接近し、前日から警報が発令されるような荒天となったため、中止とした。

16 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

* 満足 : 84.8% * やや満足 : 15.29% * やや不満 : 0.0% * 不満 : 0.0%

- 親子で一泊して一つのこと挑戦でき、普段の生活では経験できないことができて本当に良かった。
- 普段使わないような結び方など学習でき、また救助の仕方・浮き方を体験しながら学べて良かった。
- 景色も美しく、とても楽しくカヌーを体験できて、思った以上に楽しく、有意義な二日間だった。

17 事業の成果

今年度は、肱川の中流域およそ3kmのミニツアーリングを含む回を「ショート編」、下流域のおよそ10kmのロングツアーリングを含む回を「ロング編」として、それぞれで参加者を募集した。ショート編は、昨年度に導入された「参加者講習会」が好評であったため、独立させて個別に申し込みを可能にしたものである。体力面に不安のある参加者にとっては、ショート編は気軽に申し込みが出来たようで、参加者募集から10日ほどで定員が埋まり、運営面に支障がでない範囲で定員を超えて受け入れを行うこととなった。カヌーを通した自然体験活動の普及啓発という面では、効果的な内容変更であった。

また、ショート編においては、参加者に学んでもらうテーマとして「水辺で安全に活動するために必要な知識態度の習得」を掲げた。そのため、カヌー演習やツアーリングの前後にライフジャケット着用状態での川流れや着衣泳の体験、初日に水難事故の特徴や対処方法について講義を受けた後、簡易スローバッグを作製して屋内で練習し、翌日のツアーリングゴール後に救助訓練を実施した。体験から講義、そして演習とつなげることで、参加者に楽しんでもらいながら、実際に役立つ知識と態度を身につけていただけたことが、参加者の満足度向上につながったと考えられる。

18 事業の課題

台風の接近によりロング編が延期なしの中止となってしまう、10kmのツアーリングを楽しみにしていた多くの参加予定者を失望させてしまった。今年度は愛媛県で国民体育大会が開かれ、当施設も選手団の受け入れ施設となったため、ロング編の予備日を設けられなかった。来年度は荒天時に延期できるように予備日を設け、参加者の期待に応えたい。また、小学生参加者にとっては、演習とツアーリングで使うカヌーは約20kgと重く、親子参加者が苦勞する場面が多かった。来年度、より軽量のカヌーが導入される見込みとなっているが、運搬方法については何らかの工夫を考えたい。また、簡易スローバッグを作製する際、講師の説明と実演だけでは結び方を参加者が十分に理解できず、作製に時間を要した。ボランティアも含めたスタッフ打合せで、それぞれが指導できるまで結び方を理解しておく必要があった。

肱川は非常に変化に富み、自然が豊かで、水運に活用された歴史もあり、教育資源として有効な河川である。カヌーで川を下るだけでなく、肱川が持っている「先行性河川」や「緩やかな河床勾配」といった他の川にはない特徴や、木材や木蠟の水陸輸送など近現代に果たした歴史的な役割についても紹介できれば、より参加者の学びは深まるものと考えられる。「カヌーの大洲」を謳う当交流の家看板事業として、今後も発展的な企画の実施を検討していきたい。

(担当：主任企画指導専門職 来田 淳)